

令和3年度 群馬大学共同教育学部附属特別支援学校

公開研究会 実施報告

研究テーマ

学びを生かし、自分らしく社会とかかわる児童生徒の育成 ～教科の学びと関連付けた「各教科等を合わせた指導」の授業づくり～

1 公開研究会の概要

昨年度までの研究と、今年度の6月に実施した校内研究授業を受け、「各教科等を合わせた指導」における、指導内容の取扱いや目標設定、評価などについて、本校としての考え方を明確にし、「各教科等を合わせた指導」の授業づくりの過程を確かなものにする取り組みました。また、研究主題にかかわって、児童生徒の実生活や将来につながる授業の実現のために、各部において生活年齢を踏まえた具体的な姿を設定し、その姿につながる単元を構想・実施・評価することにも取り組みました。

公開研究会は、新型コロナウイルス感染症における県内外の情勢を鑑み、オンラインでの実施としました。具体的には、事前に、3学部、計8本の授業動画や資料等を配信し、当日は、オンラインビデオ会議ツールを活用した、意見交換会や授業研究会、講演会を実施しました。のべ150名の参加があり、多くの質問や意見をいただき、今後の研究にかかわる協議をすることができました。

講演会は、植草学園大学 発達教育学部 発達支援教育学科の名古屋恒彦教授に、「『各教科等を合わせた指導』の授業づくりで大切なこと」をテーマにご講演をいただきました。

2 配信した授業の概要

(1) 小学部

①算数科「かたちをみつけてならべよう」（図形）

小学部3年生、4年生の児童6名を対象に、身の回りのものから形を見つけて、かどやへりの数から形の違いを捉え、形を分類したり、形を身の回りのものに見立ててならべたりする力を身に付けることをねらいにしました。そして、日常生活における、物の整理整頓や、図画工作科や余暇活動において、形の特徴を捉えて絵を描いたり工作をしたりすることに生かしていきたいと考え、授業を構想しました。実際は、丸、三角、四角で構成された絵を形ごとに弁別したり、身の回りのものから形を見付けたりする「形探し」、身の回りのものに見立て、色板をならべて形をつくる「形ならべ」に取り組みました。

「形探し」では、教室内や校庭などの身の回りのものに着目し、具体物のへりをなぞり、見つけたかどにシールを貼ったり、見つけた形をタブレット端末で撮影し、友だちに紹介したりする姿が見られました。

「形ならべ」では、色板を使って具体物に見立てたり、へりや角をぴつたりと合わせて形を組み合わせることをねらいに、「形さがし」で見つけた形の写真の上で同じ形を合わせたり、複数の形を組み合わせて新たな形をつくったりする活動をしました。児童は、写真の上に色板を組み合わせて重ね、直線になったへりに触れて、「ちくちく（かど）がない」と答えるなど、組み合わせてできた形を1つの形として捉えつつある姿が見られ、身の回りのものの形を捉える様子が見られました。



「形探し」の様子



「形ならべ」の様子

②体育科「なげて あてて いれよう」（ボール遊び・ボールを使った運動やゲーム）

小学部1年生，2年生の児童5名を対象に，楽しみながら主体的に的当てをする中で，ボールを真っ直ぐ投げたり，遠くへ投げたりするなど，投げる力を高めることをねらいにしました。そして，「はらぺこあおむしをおかっぱいにしよう」というテーマの下，的当てやボール投げをする学習活動に取り組みました。

単元の序盤は，投げる基礎的な動きを身に付けることをねらいに，①風船や鈴を叩いたり，押ししたりしての的を揺らす②吊されたボールを持つて的に入れる③葉っぱの的を倒す的当ての3つの活動を設定しました。児童はそれぞれの活動において，腕を勢いよく振ったり，高く上げたりして，風船や鈴を叩く姿や，果物ボールを頭上まで持ち上げて進み，的に入れる姿，葉っぱの的を倒して喜ぶ姿が見られました。

単元の中盤から終盤にかけては，腕を頭の高さまで上げてボールを投げたり，ボールを遠くまで投げたりすることをねらいとしながら，個々のねらいを達成できるように，的の形や位置などを改善したり，工夫したりしました。こうすることで，ボールが的に入るように，ボールを頭上に持ち上げてから投げる姿や，ボールが的に当たるまで繰り返し，投げる姿が見られました。



吊されたボールを的に入れる様子



繰り返しボールを投げる様子

③生活単元学習「おもちゃランドをつくってあそぼう」

小学部5年生，6年生の児童6名で単元を実施しました。普段の生活上の課題から，言葉やものを介したやりとりをする力を高め，新しく出会う人とのやりとりを楽しむことができるとよいと考え，授業のねらいを「自分から呼んだり，思いを伝えたりしていろいろな人と一緒に遊ぶこと」としました。そして，「『おもちゃランド』を完成させ，友だちと一緒に遊ぶ」を児童にとっての活動のテーマとし，『おもちゃランド』の完成に向け，講師におもちゃの作り方や遊び方を教わったり，大学生のまねをして遊び方の幅を広げたりしながら，おもちゃを作ることを主な学習活動として設定しました。

単元当初は，大学生に近づき，大学生からのかかわりを待っていた子どもたちでしたが，外部講師や大学生と，一緒におもちゃで遊んだり，おもちゃの作り方を教わったりするやりとりを繰り返すことで，講師を呼ぶと自分の作りたいものを作ることができた経験から，徐々に指さしやチャームで外部講師や大学生を呼ぶようになり，自分から作ったおもちゃを紹介したりする姿が見られるようになっていきました。



指さして外部講師を呼ぶ姿



おもちゃを大学生に紹介する姿

単元の終盤は，完成したおもちゃランドに中学部1年生の友だちを招き，一緒に遊びました。自分で作ったおもちゃを紹介したり，遊び方を実演したりしながら，一緒に友だちと遊ぶ姿が多く見られました。また，その場で新たにおもちゃを作り足したり，友だちが思いついた遊び方を受け入れたりしながら，楽しく遊ぶ姿も見られました。おもちゃランドの完成と，友だちと一緒に遊ぶという目的を達成することができ，充実感にあふれた笑顔を見ることができました。



おもちゃランドで一緒に遊ぶ姿

(2) 中学部

①美術科「お気に入りのバッグにしよう」

中学部1年生と2年生の生徒6名を対象に、ステンシルとスタンプ技法を用いて、自分のお気に入りのバッグをデザインする学習活動をしました。表したいイメージに合うように、自分の気に入った形や色を選んで使う力を高めていくことをねらいに単元を展開しました。

単元の序盤は、ステンシル技法を使って画用紙にいろいろな形を写す活動を行いました。様々な大きさや形のスタンプ、15色のスタンプ台や絵の具を用意し、自分で形や色を選んで、着彩することができるようにしました。こうすることで、思い思いにスタンプや色を選んで着彩する姿が見られました。また、偶然色が重なってできた色を「見て見て！こんな色ができたよ」と友だちや教師に紹介したり、自分から混色したりする姿が見られました。

単元の中盤は、いろいろな色の組合せを自分から試すことをねらいに、バッグのデザイン案作りをしました。混ぜた色とその結果を記録できるように、「混色見本シート」を提示したり、完成したデザイン案を、投影したバッグの写真に重ね、友だちと見合ったりするようにしました。こうすることで、何度も色の組み合わせを変えたり、違った色やステンシルの形を試したりしながら、デザイン案を作る姿が見られました。

単元の終盤は、作ったデザイン案を基に、バッグへの着彩を行いました。バッグが完成すると、その場で肩にかけたり、完成したバッグを持って買い物へ出かけたりしました。このような活動をとおして、自ら表現できた喜びを感じる姿が見られました。



スタンプで表現する姿



デザイン案を投影して見合う様子



完成したバッグ

②作業学習「きれいな寄せ植えを作って届けよう」（園芸班）

中学部1年生～3年生の生徒6名を対象に、誰のために作業をするのかを捉え、自分たちで出来栄を確かめながら、正確に作業することをねらいに、園芸作業に取り組みました。「きれいな寄せ植えを作って届け、喜んでもらうこと」を目的に、本校の教師を依頼者として、相手の要望に合わせた寄せ植えを作って届ける学習活動を設定しました。

単元をとおして、友だちと声を掛け合いながら作業を進めたり、色々な角度から寄せ植えを見直したりすることができるように、2人1組のペアで寄せ植え作りを行うようにしました。

単元の序盤は、寄せ植えを届ける対象を身近な教師とし、花の向きや花柄の有無、土の量などに気を付けながら、きれいな寄せ植えを作りました。依頼をした教師の中間評価や助言を聞きながら、花の向きや植え方を見直し、作業をやり直す姿が見られました。単元の中盤から終盤にかけては、寄せ植えを届ける対象を、本校の教師に加え、本校内に事務局のある、卒業生の支援団体「ひまわり会」の職員の方に設定しました。

かかわる対象を広げ、より主体的に活動することをねらいにしました。

要望に合わせて寄せ植えを作ったり、苗を仮置きした寄せ植えを依頼者と確認したりする中で、友だちに、「（苗が隠れるまで土が入ったので）土はもういれなくていいですよ」と気付いたことを伝えたり、自分



ペアで寄せ植えを作る様子



出来栄を確かめる姿

から花の向きを見て調整したりしながら、寄せ植えを作る姿が見られました。また、花殻に気付いて自分から取るなど、出来栄を確認しながら作業する様子も見られました。

寄せ植えを届け、教師やひまわり会の職員の方から「ありがとう。嬉しいよ。」などの感想をもらい、笑顔が見られました。単元をとおして、自分から道具を用意して作業を始めたり、依頼者の要望を受けて、やり直したりする中で、生徒にとって作業に取り組む明確な目的を持つことの大切さ、中学部段階の生徒にとっての働くことの価値を再認識できた単元となりました。



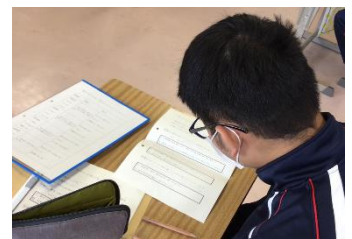
寄せ植えを届ける様子

(3) 高等部

①国語科「読んで見つけよう～宝さがしゲーム～」(読むこと)

高等部2年生の生徒4名を対象に、指示書を読んで内容通りに行動し、集めたキーワードを友だちと照らし合わせながら宝箱を解錠する、「宝さがしゲーム」を行いました。その中で、文や文章に書かれている言葉の意味や言葉と言葉をつなぐ語に着目し、繰り返し文や文章を読み返したり自分から分からない言葉や単語を調べたりして、文や文章を正確に読み取れることをねらいました。

単元の序盤は、接続詞の意味や助詞の働き、適切な動詞を理解することをねらいに、文の意味がとおるように、選択肢の中から適切な接続詞や助詞を選び、文を作る学習をしました。当初意味を正確に捉えていない接続詞などについて、教師とワークシートを使って意味を確認することで、間違いに気付き、正しい接続詞などを当てはめることができるようになっていきました。



適切な接続詞を当てはめる姿

単元の中盤から終盤にかけては、「つまり」「しかし」「だから」等の接続詞の後文に当てはまる文を選択肢の中から選んで正確な文を構成し、指示通りに行動することをねらいに学習しました。前文及び接続詞が書かれた文を読み、選択肢の中から後文を選んで文を作り、完成した文のとおりに行動して、宝箱を解除するためのキーワードを見つける「宝さがし



何度も文を読み返し、友だちと共にキーワードを探す姿

ゲーム」に取り組みました。これまでに学んできた接続詞の意味を考えて文を構成したり、自分から意味を調べたりしながら、じっくり文を読んで確認して、問題を読み解く姿が見られました。また、思っていた場所にキーワードがなかった時に、自分から文を再度読み返し、間違いに気付く姿も見られました。



②美術科「広がれ！カラフルーム」

高等部1～3年生の生徒6名を対象に、様々な表現技法を用いて教室を飾る学習活動を行いました。こうした活動をとおして、色の組合せを変え、何度も繰り返しながら、できた形や色を基に、イメージを膨らませたり、作りたいものを決めたりして、自分の作りたいものを表現することをねらいました。

単元の序盤は、スパッタリング、スタンプング、フロッタージュ、ドリッピング、フィンガーペイント、コラージュなどの表現技法を知ったり試したりする活動を行いました。教師が技法のやり方を「技法カード」で紹介したり、友だちが表現した様子を共有したりすることで、思い思いの色で技法を試す姿が見られました。1つの技法にこだわる生徒もいましたが、他の技法を勧めるのではなく、表現を試したり、楽しんだりすることを重視しました。



技法を試す姿

単元の中盤から終盤は、色や表現技法を選んだり、表現技法を組み合わせたりして作品を作って飾る活動に取り組みました。フロタージュを選んだ生徒は色や筆圧、描き方を変えたり、様々な材料を選び、こすり出す箇所を決めたりして表現する姿が見られました。また、教室の環境を工夫し、できた作品を随時飾るようにしていくことで、互いに作品を見合ったり、カラフルに彩られていく過程が見えるようにしました。こうすることで、友だちの作品を見て「いいね」と伝えたり、他の表現技法を試したりする姿も見られるようになりました。



作品を飾って見合う環境の工夫



思い思いに表現する姿

③作業学習「安全・安心・笑顔のカフェを開こう」（喫茶サービス班）

高等部1年生から3年生の生徒5名を対象に、目的に合わせて、自分や友だちの活動を振り返ったり改善したりすることをねらいに、喫茶サービス班の作業学習に取り組みました。休止していた「カフェスマイル若宮店」を新たにオープンすることを目的に、「お客様が安全に過ごせるカフェにすること」を目指し、感染症対策について話し合ったり、助言を受けたりして、ルールや手順を改善する活動を展開しました。

オープンに向けた準備と話し合いを進めるだけでなく、教師が店員役となり、生徒はお客様役として接客を体験したり、実際に喫茶店への見学に行ったりしました。こうすることで、接客の際の声の大きさや、アクリルボードの設置の必要性など、お客様の目線に立った、感染症対策や準備を提案する姿が見られました。



喫茶店の見学の様子

単元の終盤は、養護教諭をアドバイザーとして招き、実際の開店準備や接客のロールプレイを見てもらい、感染症対策や接客に関する助言をもらうようにしました。また、そうした助言を受けて、自分たちで手順表を改善することにも取り組みました。こうすることで、座席間の距離を見直したり、どのタイミングで消毒を行うかなど、実際に行動したり、手順に加えたりする姿が見られました。



養護教諭からの助言を受け手順を見直したり実行したりする姿



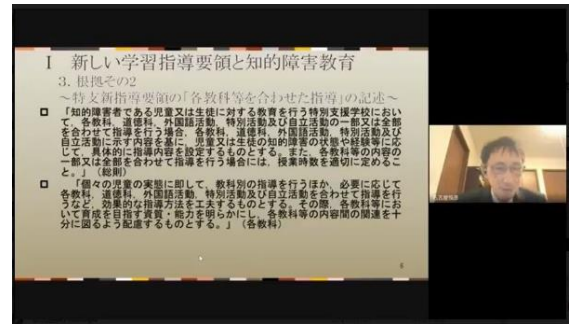
3 研究会や講演会の様子

オンラインビデオ会議ツールを使用した意見交換会や授業研究会では、画面共有機能等を活用し、授業の様子や使用した支援具、実際に生徒が作成した作品等を紹介しました。そして授業についての意見交換をしたり、参加された方の日頃の教科等の実践を共有したりしました。各学部それぞれ、20～50名ほどの先生方にご参加いただき、様々な意見や実践を共有することができました。



講演会では、120名ほどの先生方が参加されました。

名古屋先生より、「各教科等を合わせた指導」の歴史や変遷を含め、「各教科等を合わせた指導」に取り組む意義や価値、授業づくりの際に考えるべきことなどをお話いただきました。今後の学校現場における「各教科等を合わせた指導」の実践の充実につながる、大変貴重な講演をいただくことができました。



4 公開研究会を振り返って

新型コロナウイルス感染症による状況から、2年連続のオンラインでの公開研究会の開催になりましたが、県内外から多くの先生方にご参加いただき、盛会に終えることができました。参加していただいた先生方からは、本校の実践に対する忌憚ない意見を多くいただくとともに、これから一層取り組むべき課題など、多くの気づきをいただきました。今後、校内でしっかりとまとめと振り返りを行い、成果と課題を含めて、報告をしたいと思えます。この度はありがとうございました。